



祐介の目

大田ゆうすけ
(福山市議会議員)

No.36

毎月1日号に掲載

との批判記事が書かれる。私も政務活動費を使って台風被害のレイテ島を訪問して支援活動を行った。そしてタクロバン福山交流支援センターのメンバーと市民に対し報告会を開催したが、マスコミは私の報告の部分だけ記事にせず、まる

マスコミの議会報道

都議会におけるセクハラヤジがいまだに話題だ。あそこまで不規則発言たるヤジを論評するなら、議事録に残る発言も同様に報道してほしい。例えば山陽新聞は一般質問の翌日に質疑内容を要約して「論戦」という記事を掲載しているが、他紙は質問した議員名さえ省略する傾向がある。

兵庫県議の政務活動費の不正使用問題、号泣議員の記者会見映像の酷さを通して地方議員全体が貶められている雰囲気を感じる。「十把一絡げにするな!」と怒りを感じている地方議員は多いのではないか。政務活動費を使わなければ良いのかというと、私は東日本震災が発生した平成23年度において1円も使わなかったが、「大田議員は請求しなかった」の1行で終わり、まったく評価されなかった。

また、議員の視察もしかり、毎年繰り返し税金の無駄使い

でそこに存在しないかの扱いであった。いずれにしても見聞を広めることが議員の仕事と言って良く、視察の成果が施策に直結しないとしても将来施策のヒントになっている事は間違いない。

さらに、政務活動の集大成とも言つべき著書「永遠の四一」を市政記者クラブに対して紹介記事掲載の依頼をしたが反応が乏しかった。郷土の歴史として紹介してくれたのは中国と山陽新聞のみであり、それも依頼して2ヶ月後であった。無視される理由は、「著者が議員だから」であろう。

このようにマスコミは議員の悪い面のみを強調し、良い面は無視して議会の評価を下げている。その結果として議員のなり手を減らし、投票率を下げ、ますます議会を劣化させている気がする。もちろん議員一人一人が襟を正す必要もあるが、議員にしても公務員にしてもバッシングばかりされていては育たない。